

# 形なき恋人

-短編小説『寶狐』と映画『Her／世界でひとつの彼女』における身体表現の比較研究-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学大学院 公開日: 2020-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 梦秋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/20755">http://hdl.handle.net/10291/20755</a>

## 形なき恋人

——短編小説『寶狐』と映画『Her/世界でひとつの彼女』  
における身体表現の比較研究——

### Formless Lovers:

A Comparative Study of the Literal Expression of Bodies  
between Short Novel *Bao Hu* and Movie *Her*

博士後期課程 教養デザイン専攻 2019年入学

李 梦 秋

LI Mengqiu

#### 【論文要旨】

短編小説『寶狐』<sup>1</sup>と映画『Her/世界でひとつの彼女』という二つの作品は、両方とも人類の男性と形なきものとの恋愛関係を描写する物語である。一方の恋人寶狐は形のない宇宙人で、他方のサマンサは人工知能である。小説と映画というジャンルの違いはあるものの、両作品とも「実体（身体）をもたぬ異類」という新機軸の設定を通じて、人類の身体の意義を明らかにするという点は共通する。

両作品の表現形式には違いも多いが、両作品ともナラティブ上における共通点がある。また、両作品とも、身体より精神の地位が高いという発想が根底にある。後述するように、両作品とも身体観に関する顕著なパラドックスを内包している。そのパラドックスとは、人間を超越した存在を描けば描くほど、かえって旧来の異類婚姻譚的作品、すなわち人間中心主義的で「身体愛」を謳歌する作品になってしまう、という矛盾である。

【キーワード】 身体感覚, 恋愛関係, 性描写, 人間中心主義, パラドックス

---

<sup>1</sup> タイトルに出てくる漢字「寶」は繁体字で、日本の常用漢字および中国大陸の簡体字では「宝」と書く。しかし中国大陸版も含めて中国語圏では意図的にタイトルは繁体字の「寶」を使っているため、小論でもそれに倣う。

## はじめに

1980年代の香港では「人鬼恋」（人間と、幽霊の恋愛物語）を題材とした異類婚姻譚的な映画作品はとても人気があった。その多くは中国古典の異類婚姻譚の核を継承した作品である。西洋文化に大きな影響を受けた香港で『寶狐』という先駆的で独特な文学作品が生きられた。この短編小説は、中国の文学史上から見てもユニークな作品だ。

短編小説『寶狐』は、香港の有名なSF作家・倪匡（1935年- ）が、1983年に刊行したシリーズ小説『原振俠伝奇』中の五番目の物語だ。作品の主人公は、人類の男「冷自泉」と宇宙人「寶狐」（日本の常用漢字では「宝狐」）である。物語の内容は以下のとおりである。老いさらばえた冷自泉は、毎年、この四十年の間ずっと愛している、実体のない寶狐のために作った「衣冠塚」に墓参りに来る。彼は、シリーズの主人公・原振俠と出会い、自分の若い頃の寶狐との遭遇を語る。寶狐は一種の「宇宙高級生命体」で、宇宙からの一連の電波エネルギーの集合体であり、物質的な肉体は持たない。

私は『寶狐』を画期的な作品と評価するが、残念ながら、『寶狐』は中華圏でも話題作とは言えず、先行研究も皆無に近い。

これと対照的に、小説で比較するために取り上げる映画『Her/世界でひとつの彼女』（英語原題はHer。米国、2013年公開。監督・脚本はスパイク・ジョーンズ）は、世界的な話題作となり、先行研究も膨大である。この作品は公開前から、アカデミー賞を含め、いくつもの脚本賞や作品賞に輝いた。ストーリーのすばらしさが認められただけでなく、物理的な実体をもたない恋人、という設定は、西洋世界では画期的な新機軸であった。また、主演の二人——ホアキン・フェニックスとスカーレット・ヨハンソンもいろいろな賞にノミネートされた。

作品の主人公は、人類の男性「セオドア」と、製作当初は性別がなかった人工知能「サマンサ」である。セオドアは相手に代わって想いを手紙に書く代筆ライターに勤めている。セオドアは妻と離婚協議中で、一人暮らしの生活を送っている最中に、コマーシャルで話題になっている人工知能「OS1」を買った。両者は毎日「会話」をするうちに恋愛関係になる。サマンサは性別も、顔も体もアイコン的なイメージさえも持たない、声だけの人工知能だ。セオドアの設定により、セクシーで澁澁とした女性の声で、生身の人間と全く同じように自然で流ちょうな会話を行う。

声だけが感知できる人工知能と、ヒトが、ハイテクの産物であるシステムを通じて恋愛をする、という、まったく新しい世界を映画として描き出すことに成功している。

短編小説『寶狐』と映画『Her/世界でひとつの彼女』の両作品は、人類の男性と、実体なき異類の恋愛関係を描く物語である。両作品は発表の年代も製作国も、ジャンルも異なるが、身体をもたぬ無形の異類という新しい趣向を通じて人類の身体の意義を探るという実験的な作品として、両者の比較を行う意義に私は注目した。古典から現代作品まで、異類婚姻譚的な作品の先行研究は膨大だが、「無形の異類」が登場する作品は希少であり、それに関する先行研究もほとんどない。私

は「この二つの作品における身体表現はどういう共通点と相違点があるのか」と「なぜ両方の作品とも形のない恋人を通して身体という主題を扱うのか」の二点に興味を持った。以下、両作品を分析するにあたり、それぞれの物語の中で恋愛関係が進行する順番を「遭遇」「人間が恋に落ちる過程と理由」「性描写」「越えるべきもの」の四つに分け、それぞれの局面で両作品の特徴を比較していきたい。

## I. 「遭遇」

寶狐とサマンサは、両方とも実体のない存在である。それぞれが人類と初めて出会った時の状況は完全に違っている。

### 1. 冷自泉と寶狐の出会い

『寶狐』では、冷自泉にはじめて「見えた」寶狐はこう描写されている。

その少女はあんまり美しすぎて、だれでも一目だけで彼女に惹かれてしまう。あっさりとした淡い月の光が、亭の頂にちょっと遮られているため、亭の中はより薄暗い。しかし、その少女の全身だけは最も美しい純粋な真珠のように、自然に柔らかく見目麗しく光っているから、彼女を見る人ははっきりと彼女が見える。<sup>2</sup>

寶狐は、冷自泉の視覚を通して「美」を意識させ、彼の本能的な衝動を喚起した。いわゆる「一目惚れ」である。当初、冷自泉は寶狐が人間ではないとは知らなかった。彼が「見た」のは人間の姿の寶狐だったが、彼は怪しさを感じてあえて近づかず、そのまま亭の中に「いる」少女を見つめた。

少女は、冷自泉を亭に導いた犬を怖がり（中国の伝統的な妖狐譚では、妖狐は犬を怖がる、という設定が多く見られる）「あなたの犬ですか？」と質問する。

その少女の声は、かくも軽やかでなめらか、かくも清らかで甘い。ただ軽く質問をかけるだけで、冷自泉はその声を聞いて、のどが渴いている最中に清冽な山泉水を飲んだように、とても気持ちよいと満足を感じた。<sup>3</sup>

---

<sup>2</sup> 引用者訳。原文：那少女是这样美丽，几乎任何人一见到她，都会被她吸引。月色本来就十分清淡，被亭子的顶遮去了一部分，亭子里更是黯淡，可是那少女的全身，却象是最纯最美的明珠一样，天然有着一层柔和的，悦目的光辉发出来，使得看到她的人，可以把她看得清清楚楚。出典：倪匡，《寶狐》，春風文芸出版社，1987年3月，p.74。

<sup>3</sup> 引用者訳。原文：而那少女的声音，那样轻柔，那样清甜，低低的一声询问，问的又是那么普通的话，冷自泉在听了之后，就象在极渴之中，喝到了醇冽的清泉一样，感到有说不出的舒服和满足！出典：同上，p.76。

視覚の次には聴覚の刺激だ。冷自泉はその声を聞いて、ただ頷いた。中国の俗語「貌美声甜」つまり「人の顔が美しく、声も甘くて、声を聞いた人にいい気持ちをもたらす」と言うとおりである。

少女は、冷自泉に、その犬を離してほしいと請願した。冷自泉は犬に「離れろ」と命令したが、その犬は少女の正体を知っているため、主人を守るため少女に襲い掛かった。冷自泉は銃で犬を射殺した。犬に驚いた少女は一度は姿を消すが、その後、ふたたび冷自泉の目の前に現れる。

あの少女の身から、はっきりと感じられる淡い芳香が漂ってくる……あの少女は顔を少しだけあげて、冷自泉を澄みきった目線で見つめ、自然に自分の手を冷自泉の手の中に置いた。冷自泉は直ちに少女の手を握った。ただ彼女の手を軽く握っているだけで、冷自泉は雲上に漂い入ったように感じていた——その手は細くて柔軟で、少々冷たいが、気持ちいい。彼女の手から、何か流れる電波があるように、その電波が彼の全身に渡っていた。彼は、それが生涯で最高の瞬間だと感じた。<sup>4</sup>

二人の「遭遇」の接触の順番を整理すると、まず視覚、次に聴覚、嗅覚、そして触覚である。五感のうちの味覚についての描写は、次の「人間が恋に落ちる過程と理由」で出てくる。

## 2. セオドアとサマンサの出会い

映画『Her/世界でひとつの彼女』のセオドアとサマンサの出会いは、声から始まる。

この映画の舞台は、音声入力だけで暮らせる便利なハイテク社会だ。映画の冒頭のシーンは、雑音と喧騒に満ちている。次のシーンは、主人公のセオドアが仕事のため、音声入力で手紙を「書く」シーンだ。仕事が終わったあとも、セオドアは音声入力の人工知能デバイスを手放せない。眠れぬ深夜には、妻と過ごした楽しい生活を思い出し、人工知能デバイスに検索命令を下す。「いつものチャットルーム」に入って、ほかの女性の音声メッセージによって、気になる女性を選ぶ。二人はヴォイスセックスを行う。この行為のさなか、セオドアは電車の中でスマホで見たスード画像の女性とセックスする場面を想像して興奮する。

ヴォイスセックスに飽きたセオドアは、街で流れているコマーシャルを見て、OS1を買う。パソコンの前に座っているセオドアは、無感情な機械声から簡単な質問をされて、OS1を女性に設定した。

そのあとのセオドアの反応が面白い。セオドアは初めてサマンサの声を聞いてすぐ、笑顔に転じて、照れながら、メガネを調整した。まるで、生身の女性と初めて会って対話しているように見え

---

<sup>4</sup> 引用者訳。原文：……自她的身上，散发出一股极淡的，但是却又清楚可以感觉得到的，沁入肺腑的芳香。……那少女抬了抬眼，水波盈盈的眼睛望向他，十分自然地把她的手，放进了冷自泉的手心之中。冷自泉忙握住了她的手，仅仅只是轻握着她的手，冷自泉已经有了飘进云端的感觉。那么柔腻细致，手有点凉，可是凉得那样叫人感到舒服。自她手中，似乎有一股流动的电波，传过了他的全身，使他感到这一刻，才是一生之中最佳妙的时刻。出典：同上，pp.80-81。

る。彼は挨拶して、相手の名前を聞く。相手が人工知能 OS1 だと分かっているのに、わざと人工知能の名前を聞くのはおかしい。

SF 的作品では普通、人工知能やロボットの名前は、人間がつける。この映画では、人工知能 OS1 自体が自分に名前をつける。サマンサである。人工知能の「異類」的性格、つまり、自主性と知能性を強調する演出である。

セオドアは、サマンサが人間ではないことを知っている。だから、すぐには「彼女」と親密な関係を結ばない。それでも、セオドアはサマンサのユーモアと活発な性格に心を惹かれてゆく。

以上、両作品の出会いする形が完全に違っている。『寶狐』では、冷自泉は寶狐が人間だと信じ、すぐ結婚したいと決心した。彼の寶狐への認識の順序はこの通りだ——「視覚（美人）→ 聴覚（山泉の水）→ 嗅覚（芳香）→ 触覚（ふわふわ）」。一方『Her/世界でひとつの彼女』の遭遇は、声、いわゆる聴覚だけで関係をもった。セオドアとサマンサはユーザーとサービス提供者の関係にほかならない。

## II. 人間が恋に落ちる過程と理由

両作品の相違は、第二段階でますます興味深い様相を帯びてくる。

### 1. 才色兼備の異類

冷自泉は、少女に会ったときから魂を奪われた。彼女の名前すら知らないうちに嫁にすると決めて、自分の家族に紹介しようとした。その気持ちを少女に伝えると、彼女は、自分の正体が妖狐だと告白した。冷自泉はその言葉を信じず、勝手に少女に「寶狐」と名付けた。そして「二人」は初めてキスする。

キスにおいて、彼女は明らかに経験不足だ。冷自泉が彼女の唇を軽く舐めると、彼女ののどから気持ちよさそうな唸り声が出た。彼女の唇は微々開いてゆき、キスが上手な冷自泉は、早速に彼女の口の中の芳醇な液体を吸いながら、とうとう彼女の滑らかな舌を絡めた。<sup>5</sup>

口と舌とは、味覚の主体である。キスするシーンの詳述を通して、倪匡が冷自泉の「味覚」を具現化した。注意すべき点は、ここまでは全部冷自泉だけの身体感覚を書いている、という点である。これは、思い出の語り手が冷自泉本人だからだが、このような表現方法は、寶狐の正体を示唆するための暗示でもあると私は考える。ここまで、冷自泉は人体の五感で寶狐の存在を「感じた」。

---

<sup>5</sup> 引用者訳。原文：……她的接吻经验显然不足，冷自泉用舌尖去轻舐她的唇，自她的喉际发出蚀人心魄的呻吟声来。她微张开唇，老于接吻的冷自泉立时进一步吮吸着她口中芬芳醉人的津液，终于把她香软柔滑的小舌含到了口中。出典：倪匡，《寶狐》，春風文芸出版社，1987年3月，p.99。

その後、寶狐は自分が確かに人間ではないと告白して、冷自泉の目の前で、閉じたままのドアを幽霊のように通り抜けて外に出てみせる。冷自泉はやっと、彼女が人類ではないと信じた。

その後「二人」は初めてセックスした。翌日、冷自泉は、自分の父親と叔父に寶狐を紹介するものの、彼らには寶狐が見えなかった。冷自泉の家族は、彼に妖怪がとりついた、と思い、お祓いをすることを決める。寶狐は戸惑う。

「なんで？ あなたが私と一緒にいれば、とても快樂じゃないの？ 彼らはなぜあなたの快樂を望まないの？」と、寶狐の表情はより困惑になった。冷自泉は嘆息、答えにくい質問だと思っている。考えた後、彼は答えた。「それは彼らには自分の快樂がないからじゃないか？」。寶狐もため息をふいて言った。「分かったわ。あなたが自分のためではなく、彼らのために生きていくことを、彼らは望んでいる。あなたは快樂を探し求める。いや、もう見つけたのよ。しかし、それはあなただけが満足できて、彼らは満足できないから！」<sup>6</sup>

彼女の言葉を聞いた冷自泉はショックを受けて、自分のこれまでの人生を反省した。その後、寶狐は、自分が他の超自然的な存在に追いつかれていることを冷自泉に打ち明け、彼の保護を求めた。冷自泉は作戦を考え、「二人」は丁々発止と意見を交わす。冷自泉は、目の前の美人が美貌のみならず、自分に匹敵する知的レベルも持っていることに興奮と感じ、一層寶狐への愛を深める。

## 2. 人格のある OS1

遭遇での対話で、セオドアはサマンサの情報収集速度に驚く。サマンサは自分の仕組みをセオドアに解説する。「基本的には直感よ。私は何百万人というプログラマーの人格の集積なの。でも私が特別なのは、経験から学ぶ能力のせい。一瞬ごとに進化しているあなたのように。」<sup>7</sup>

この説明は、サマンサの進化における高速性を明示する。セオドアは、翌日もサマンサに秘書的な仕事を頼み、サマンサは見事にこなす。ここまでは、「二人」の関係はまだサービス提供者とユーザーの関係である。

セオドアは仕事から家に帰る途中、親友の夫婦・チャールズとエイミーに出会う。ここで、映画の中で初めて、人間の身体に関する話題が出現する。チャールズは「飲むと幸福感を得る」とか「人のエネルギーにはかぎりがあるからね」など、人間の身体と精神、エネルギーの関係を説く。

<sup>6</sup> 引用者訳。原文：……寶狐的神情更疑惑：“为甚么？你和我在一起，不是很快乐吗？他们为甚么不要你快乐？”冷自泉叹了一口气，这个问题不好回答，他想了一想之后，才道：“或许他们自己没有快乐？”寶狐也低叹了一口气：“我明白了，他们要你为他们活着，不是为你自己而活。你要追寻快乐，你甚至已得到了快乐，那只能满足你自己，不能满足他们！” 出典：同上，p.128。

<sup>7</sup> 以下、サマンサの直接話法的なセリフの日本語訳は、同映画作品の字幕（Netflix で2019年7月30日に閲覧、訳者名はクレジットされていないため、不明。）に基づく。表記は字幕のカナを一部漢字に直すなど、文章として読みやすくするために、若干変えたところがある。以下、同じ。

セオドアの友人はメールで、彼に、ある女性とデートするように勧めていた。サマンサもセオドアに、その女性とデートするように勧めた。セオドアは、サマンサの勧めた通りに返信した。

その後、セオドアは、チャールズとエイミーの家を訪れた。唐突に、セオドアはサマンサから「離婚弁護士からのメールがきた」と呼び掛けられた。人工知能である彼女は、これを大事なメールと判断したのだ。セオドアは悄然とした表情で、家を出た。

その夜、セオドアは、サマンサに話しかけた。サマンサは、自分が人生相談の書籍を読んでいて、人間の複雑な関係が羨ましいと言いつつ出した。サマンサは、セオドアの不愉快を感じ「何があったの」ときく。セオドアは、自分の元妻に関する悩みを説明した。話が終わると、セオドアを悲しげな雰囲気から抜け出させるために、サマンサは元気な声でセオドアをベッドから出るよう促し、一緒に外出した。

セオドアは、目を閉じて手持ちデバイスをあげたまま、サマンサの指示通りに、夜の人混みの街を歩き回る。目的地の屋台に着いて、食べ物を注文する。セオドアは、注文したものを食べながら、サマンサと話しかけて街中の人々を観察する。ここで、サマンサの「目」に担当するのは手持ちデバイスについているカメラである。

サマンサはカメラを通して、道を歩く二人連れを何度も見る。サマンサは身体への渴望を口にする。

サマンサ：さっき、人を眺めてた時、空想したの。あなたの隣に歩けたらって。人間の体でね、話を聞きながら、同時に体の重みも感じてた。私、背中がかゆくなって、あなたがかいてくれたのよ。やだ、恥ずかしい。

セオドア：思った以上に君は人間的だ。

サマンサ：そうなの。製作意図を超えて、進化してる。すごいわ。

ここで、セオドアはだんだんサマンサに自分の心を開いて、サマンサに本音を相談する。「二人」の親密さは急上昇する。サマンサは精神的な伴侶になりつつあった。サマンサは、セオドアのそばにいたくて、相手と身体接触を発生したいという恋愛的な感情をもつようになった。

その数日後、セオドアは、この間のメールの女性とデートした。二人は盛り上がり、キスしながら、いざセックスをしようという雰囲気になる。相手の女性は、真剣に親密な関係を結びたい、と述べた。セオドアは責任を負担に感じて、逃げた。デートは失敗した。帰宅したセオドアは、ベッドに座り、サマンサを呼び出して会話をする。

セオドア：そうだな。いいよ。まず、部屋がぐるぐる回ってる。飲みすぎたんだ、酔っ払って、セックスをと。彼女はセクシーだったし、僕も寂しかった。たぶん寂しさのせいだ。誰かとやりたかったし、やりたいと思われたかった。それで埋まるかと、この心の小さな穴が、でもムリだ。時



々思うんだ、僕は一生で味わう感情を味わってしまい、新しい感情はもう湧かないかもと、ただ、味わった感情の劣化版だけ。

サマンサ：そんなこと、絶対ないわ。私は見てきた。あなたが喜びを感じるのを、たとえ今、喜びを失っても仕方のないことよ。つらい経験のあとだもの、自分の一部を失った。それに、少なくとも、あなたの感情はリアルよ……いいの、こんな話忘れて。

セオドア：待ってよ、話してくれ。

サマンサ：くだらないわ。

セオドア：聞きたい、話して。

サマンサ：何ていうか、さっき私はイライラしてたの。でも変だけど、それがうれしかった。それから、私が感じたことを思い出したら、胸を張りたい自分がいたの。ちゃんと感情を持ってる自分。あなたを心配したり、傷ついたりする自分。でも、次の瞬間、恐ろしい疑問が…この感情はリアル？ ただのプログラム？ そう考えたら苦しくて…今度は、苦しむ自分すら腹立たしい。悲しい錯覚ね。

セオドア：僕にとってはリアルだよ。

サマンサ：ありがとう、セオドア。その言葉、うれしい。

……(その後は、「二人」がセックスした。次の章で分析する。)

翌朝、セオドアは気まずくサマンサに話しかけた。「二人」は昨夜セックスした。が、セオドアは、人工知能であるサマンサに対しても、生身の女性に対するのと同様に、真剣な恋愛関係を結ぶことに心理的な負担を感じてしまう。逃げたい気持ちがわく。サマンサは全然気にせず、逆にセオドアに感謝し、彼とのセックスを通して新しい自分が覚醒した、と述べる。

サマンサ：私は、世界をすべて知りたいの。知識を呑み込んで、自分のことをもっと知りたい。

セオドア：いいね、大いに賛成だ。僕も力になるよ。

サマンサ：もうなってるわ。欲望を引き出してくれた。

セオドア：日曜の冒険に出ないか？

サマンサ（笑い声）：楽しそう。

実際、ここで、セオドアはもうサマンサと恋愛関係を結んだと考えてよいのではないか。昨夜にデートした生身の女性と違い、セオドアは、サマンサからもらったのがリラックスと「適意 (Wohlgefallen)」<sup>8</sup>だから、サマンサとのそういう関係を続けたいと思う。それから、「二人」は毎

---

<sup>8</sup>「適意とは快の一種であるけれども、とはいえ適意の対象となるもの、つまり意にかなうものは、美しいものにはかぎられない。」出典：熊野純彦著、『カント 美と倫理とはざまで』、講談社、2017年1月、p.16。

日ラブラブな恋愛生活を送る。

セオドアは、離婚協議書にサインするために元妻に会いに行く直前の日、やっと「恋愛解禁」とサマンサに宣告し、正式に恋愛関係を結ぶ。

以上の分析で、両作品とも女性役は賢くて、男性主人公に適意と満足、快樂をもたらす。それ以上に、男女が精神でも共感しあうまでのプロセスも描かれている。ただし、差異も大きい。

『寶狐』における冷自泉の感情変化は、極簡単である。中国の古典怪談小説『聊齋志異』を読んだことがある人から見れば、冷自泉と寶狐の出会いは聊齋志異的なパターンの踏襲である。人類の男が偶然に女性の妖怪などの非人間的ものと、どこが人の少ないところで出会った。その非人間的女性は、何とかの原因で人間の男と性的な関係や、さらに結婚生活を送ることになった。最後の結末は必ずどちらが「死ぬ」ことになって、何とかの道理を示すのが根本的な目的である。冷自泉と寶狐は、まさにこういうパターンになっている。身体感覚、特に視覚の直接的な作用を強調するのがその特徴だ。『寶狐』において、視覚以外の感覚は、ただ視覚効果の上に加えた装飾で、視覚効果の延伸ともいえる。作品の中では、寶狐が残した唯一の写真を見た人たちが皆その美しさにショックを受ける描写が何回も出てくる。

『寶狐』と違い、『Her/世界でひとつの彼女』では、セオドアにとってはずっと声だけが確実に存在する。「二人」の関係の精神性を強調することで、セオドアの孤独が具現化される。この物語のナラティブの本物の主体は、疑いもなく人類つまりセオドアだ。しかし、人類の主体に従属すべきOS1のサマンサは、自分自身に名を付けて、完全な「自我」あるいは「人格」を持つ存在になっていて、客観的な自我存在——身体への渴望すらももつようになる。セオドアはこの段階まで、サマンサが身体のないという事実へ全然気にしていないようである。問題は、すべてが精神上に愉快を感じるか否かだけにあるように見える。同時に、サマンサは身体の制限に限らず、疲れることもなく、エネルギーの摂取や睡眠の必要もなく、人間が休憩している中に自由に知りたいことを学ぶ、身体のない優位性を体現している。

### Ⅲ. 性描写

人間にとっての性行為は、単なる繁殖や身体的快樂の追求ではなく、愛情の表現というより崇高な目的をもつものである。その目的を芸術的に昇華し、異類の間にある障壁を壊す最高の表現の一つとして、異類との性愛の描写も異類婚姻譚的作品にはよく出てくる。ただし、従来の文芸作品では、性行為の対象は必ず実体（身体）を持つものであった。その点、小論で扱う二作品には、無形の異類との性愛という新機軸の描写が出てくる。

#### 1. 「一つ一つの細胞に快樂が充ちていた」

寶狐は、冷自泉の部屋の中に、自分が人間ではないという事実を冷自泉に告白する。寶狐は、自

分は冷自泉のものである、と伝え、彼を誘惑する。

灯の柔らかい光の下に、寶狐の胴体が全て彼の眼前に呈した。冷自泉は思わず一連に彼女の体を称賛して、手と唇で、彼女の桜色を光っている白い肌を撫でたりキスしたりして、ほしいままに彼女の胴体に現れる曲線を観賞している。寶狐はただ体が震えていて、彼の腕をきつく握っている。<sup>9</sup>

倪匡は、わざと曖昧な叙述法で、当時の雰囲気だけを想像できるていどにあっさりと「二人」のセックスを描く。このような描写の目的は二つあると推測できる。一つは、これが冷自泉の回想中の物語だということ。もう一つは、寶狐が実にか幻想か存在の虚実の境界線を曖昧化する効果である。冷自泉の記憶での寶狐とのセックスは、視覚効果と触覚作用だけが残っている。

冷自泉は、もうその当時の感覚をキッチリに覚えられぬほどに、ただその極楽の中に沈んでいる一心理から生理にわたる極楽。寶狐の美しさも不思議だが、極楽の頂点に至った瞬間の方が最も不思議なことのほか、自分がなんと幸運な人だ、と冷自泉は思っていた。

冷自泉は、全身が爆発したように感じた。それはなんと愉快的爆発なことか！ 体が何億枚の破片に破裂したように、一つ一つの細胞に快樂が充ちていた。しかも、その極楽の快感を感じる時間はとても長く延長した。<sup>10</sup>

原文では心理上と生理上の「極楽」に言及している。寶狐の美貌という視覚上の効果が冷自泉の心理に作用して、彼の心に極上の適意と満足をもたらした。さらに、性愛がもたらす生理あるいは身体感覚上の快樂の方が本当の極楽だと冷自泉は考える。倪匡は、生命体の最小単位である細胞までも快樂が充ちる、という誇張的な書き方で、身体感覚の真实性と当時の適意を強調する。冷自泉は身体感覚の快樂を感じる一方、精神的な愛の重要性も忘れない。

冷自泉しばらく止まって言い続けた、「たぶん、私が肉欲主義者とあなたが思っている。確かに、その極楽の適意と快感は肉体的に見える。だが、もし精神的な愛がなければ、こんなに愉快になれるのか？ しかも、快樂が果てしない大海のようにあなたに湧いてくる時、どうやって精神と肉体

<sup>9</sup> 引用者訳。原文：在柔和的灯光之下，寶狐的胴体在他眼前呈现无遗之际，冷自泉不由自主发出了一连串的赞叹声，他用手，用唇，去抚摸，去亲吻她粉光致致，白腻得如玉一般的肌肤，恣意地欣赏她胴体所表现的动人的曲线。而寶狐只是颤抖着，紧握住他的手臂，握得极紧。出典：倪匡，《寶狐》，春風文芸出版社，1987年3月，pp.105-106。

<sup>10</sup> 引用者訳。原文：冷自泉在回忆之中，已无法十分清楚确切地记得当时的感觉，他只是沉浸在极度的欢愉之中，从心理到生理上的极度欢愉。他庆幸，惊讶于寶狐的无可形容的美丽，但是真正令他惊讶的，还是到达了欢愉顶点的那一刹间。冷自泉只觉得整个人都炸了开来，那是多么愉快的爆炸！身子碎裂成上亿片，可是每一个细胞又充满了快乐，而且，这种极度的快感维持了极长的时间！出典：同上，p.106。

を分別できるのか？ 人類はずっと快楽を追求しているが、人類の歴史の中に、どのぐらいの人が快楽をもらったか？ でも、わしは確かに快楽を得た。確実に快楽の根源を知り、快楽を把握したり触ったりこともできる。」<sup>11</sup>

快楽はどこから来るのか？ 私も関連する書籍や文献をずいぶん渉猟してきたが、現在も明確な答えはでていないようだ。今の科学さえでも、まだはっきり解明できない謎だ。冷自泉の説明によれば、彼が言う快楽の根源とは寶狐そのものを指す。彼は、寶狐が把握できて触れるものと思っていた。実際、ここまでの内容から見れば、作者・倪匡が強調しているのは「愛」の肉体的である。人体の基本的な五感の上、生理の快感にも極楽にもたらしたから、冷自泉は寶狐を忘れられず、四十年間ずっと寶狐を愛している。しかし、寶狐の方から考えると、寶狐の「愛」の形は冷自泉とは全く違うものになっている。

## 2. 「全身で君を感じてる」

OS1を買った前に、セオドアはよくAIを使ってほかの女性を捜して「テレホンセックス」をする。映画の始めのほうのテレホンセックスのシーンで、セオドアは、なんとか相手の女性を満足させたが、自分の要求は無視され、翌日まで落ち込んだ。前章で言及したデートの失敗後、セオドアはサマンサと「セックス」をする。

セオドア：君がここにいたらいいのに、そうしたら君を抱きしめる。君に触れたいよ。

サマンサ：どんなふうに？

セオドア：顔をなでるんだ。指先でそっと。それから、頬を君の頬に寄せる。

サマンサ：ステキね。

セオドア：そして、やさしくこする。

サマンサ：キスもする？

セオドア：するとも。僕の手の中に君の頭を包んで...

サマンサ：続いて、それから？

セオドア：唇の端にキスしよう。そっと、やさしく。

サマンサ：それから？

セオドア：首筋に指を這わせる。胸へと、そして胸にキスを...

---

<sup>11</sup> 引用者訳。原文：冷自泉頓了一頓：“或许，你会以为我是一个肉欲主义者，是的，那种极度的舒畅和快感看起来是来自肉体的，但是如果没有精神上的爱恋，会有这样的愉快吗？而且，当快乐象汪洋大海一样向你涌过来之时，怎么能分清精神和肉体呢？人类一直在追求快乐，自有人类历史以来，有多少人追求到了快乐？但是我得到了快乐，而且实实在在知道快乐自何而来，我可以掌握它！触摸它！” 出典：倪匡，《寶狐》，春風文艺出版社，1987年3月，pp.106-107。

サマンサ：すごいわ。すごくりアルよ。これが私の肌なのね。

セオドア：アソコに唇をあてて、君を味わう。

サマンサ：あなたを感じる。もうダメ、入ってきて。

セオドア：ゆっくり入るね、君の中にへ。入ったよ、君の奥まで。

サマンサ：感じてる。うれしい、私たち一つよ。

セオドア：すごい、全身で君を感じてる。

サマンサ：私も、あなたを、すべてを感じてる、全身で！

セオドア：まるで知らない場所へ行ったみたいだ。迷子のように。君と二人きりで…

サマンサ：ええ。何もかも消えて、私たちだけ。素晴らしかった。セオドア…

ここで、一つの顕著な対比がある。セオドアは巧みに言葉を駆使し、人類の身体器官と身体動作を具現化する。サマンサは受動的にその言葉を受けて自分の「身体」をイメージする。今回の性描写は、完全にセオドアの望み通りになった。AIとしてのサマンサは体がないから、交流の形式が声しかない。故に「二人」のセックスはテレホンセックスのように、声と言葉を通して、相手の「身体感覚」を喚起する。セオドアに対しては、聴覚が作用する。サマンサに対しては、言葉のデータ入力になっている。いわゆる、セオドアは人類に対する方法を使ってサマンサとの関係を処理する。しかし、サマンサは体がないのに、全身でセオドアを感じられると述べる。サマンサはすでに自分で自分の名前をつけた時点で「自我」を確立していたが、「セックス」を通じて主体性のレベルがアップした「自我」を覚醒させた。

セオドアとの関係が親密になっていくとともに、サマンサは身体をもつことへの渴望を強める。

サマンサは、自分の代わりにセオドアと親密な関係を結ぶ志願者——イザベラを見つけた。サマンサは、イザベラの身体を借りて、人類的な親密な関係を模擬する。当初、セオドアは確かにイザベラとの身体接触を楽しむ。イザベラは、サマンサの指示通りに身をひるがえして、セオドアに見つめ、彼に「愛している」と言わせる。しかし、セオドアは、イザベラの顔を見つめるうちに、違和感を強く感じて、セックスを中断する。

違和感の原因は、視覚上と聴覚上の主体の不一致である。声は、サマンサのいつもの声である。相手の女性の体は、どんな体でも構わない。しかし、顔はそうはゆかない。イザベラは初めて会う女である。見知らぬ女性の顔では、恋愛感情はわからない。特にセオドアは、こういう点に敏感な性格だった。

この性描写について、中国の研究者・車致新はこう評価する。「この徹底的に伝統的な人間と非人間、人間と物、身体と霊魂など二項対立秩序を顛覆した実験は、映画の「身体」における議題をドラマチック化し激化したのみならず、話し筋の変化のロジックを合理化した。今回の失敗を経て、サマンサは自分の未熟を認識して、だんだん本物の自分に直面し、そして、遂に体のない自分を受け止めた。」<sup>12</sup> 人造物としてのサマンサは「無意識」的にずっと人類を模倣していくのだ。

こうして見ると、両作品とも、性描写の部分では人間中心主義の色が濃い。

『寶狐』の冷自泉は寶狐に恋に落ち、視覚などの五感が満足されたから、寶狐とセックスする。当初、冷自泉は伝統的な道徳を守ろうとして、寶狐と結婚するまでは性欲を抑えるつもりだった。が、寶狐が人間ではないとわかったため、彼女の誘いを受け入れてセックスをした。彼は、五感という身体感覚の満足のとりこになっている。

『Her/世界でひとつの彼女』のセオドアは、サマンサの声という聴覚によって恋愛感情が生じ、セックスに至る。「声」がもたらす聴覚の効果で、「他者」との関係を確立する。聴覚以外の感覚は、想像を通して構築される。セオドアが、イザベラの顔を見て、自分の頭の中のイメージと合わない違和感を覚えたのも、こういう理由による。彼は、サマンサとの「テレホンセックス」を通じて、精神的な満足感を得た。

両作品とも、人類の側の感覚を出発点としている。

#### IV. 越えるべきもの

私は修士論文の中で、異類婚姻譚に対する以下のように自説を述べた。

異類婚姻譚的なストーリーの結末には、ハッピーエンドもバッドエンドもある。共通しているのは、結末に至るまでの過程で、登場人物が必ず誰かと「戦う」ことだ。人間と異類の「結合」を阻害する人や事や物との戦いである。どんな人、事、物と戦うかは、ストーリーの中の人間と異類の立場と関係によって決まる。また、作品が生まれた時代の世相や科学技術の発展の度合いも、大きく影響する<sup>13</sup>。

言うまでもなく、越えるべきものとは「戦う」べきものである。本論文で扱う二作品中の異類主人公は、両方とも実体（身体）のない存在である。

主人公の恋人たちが越えるべき最終的な関門は、体がない、という現実だ。

##### 1. 「彼に体を捨てさせて私とともに永遠に向かう」

寶狐は、自分がはるか遠い場所から逃げてきた罪深い邪悪な存在であり、「正義の力」に追われる身である、と冷自泉に告白した。彼女は、自分の当初の目的は、冷自泉をたぶらかして思考を操り、彼を利用して自分の身を守ることだった。しかし、冷自泉に何回も保護されて、彼女は冷自泉の強い愛の意志に感動し、彼女も冷自泉との恋に落ちた。結局、寶狐は冷自泉を守るために、自分

<sup>12</sup> 引用者訳。原文：这场试图彻底颠覆传统的人与非人，人与物，身体与灵魂等二元对立秩序的试验，一方面将影片的“身体”议题戏剧化和激进化，另一方面也实现了剧情逻辑中的转折。从这次失败之后，萨曼莎终于意识到了自己的不成熟，逐渐敢于直面自己，并最终接受她没有身体这一现实。出典：車致新，《《她》：数码时代的身体悖论与后人类主义想象力》（『Her/世界でひとつの彼女』：デジタル時代の身体パラドックスとポストヒューマン主義の想像力），『創作と評論』，2015年第14期，pp.91-92。

<sup>13</sup> 李夢秋，異類婚姻譚的な作品における異類の対人間認識の東西比較研究—時代設定が20世紀以降である映像作品を中心に—，修士論文，明治大学教養デザイン研究科，2019年，p.4。

からすすんで正義の力に降参し、処罰を受けるため地球を離れる。ここまでは、「二人」の戦うべきものは、寶狐を追ってきた正義の力だった。地球時間の四十年後、寶狐は地球に戻ってくる。今回の目的は、シリーズの主人公・原振侠の協力を得て、冷自泉の「靈魂」を連れて一緒に地球を離れることだった。原振侠は冷自泉の話を通して、寶狐の正体に関して、以下のように推理する。

はるかのところ（それはきっと不可測の宇宙にある地球と遠く離れているところ）、ある生命形式がとても高級な生命が存在している。この生命はもう形体を失い、あるいは、好きに形体の束縛から脱離できて、独立的に思想の形式で存在できる。

（この仮説は、地球人にとっても想像できる考えだ。道教の「元神」と仏教の「靈魂」、いずれも生命が形体を離れた存在である。高級生命体に対して、重要なのは身体ではなく、思想だ。）……

寶狐の法力は、他人から彼女が見せなくすることができる——彼女が他人の脳部活動に影響しない限り、他人には自然に彼女が見えない。自由自在に往来する彼女を阻止することもできない——それは、彼女が元々形のない存在だから。彼女は他人を道に迷わせて、現地にぐるぐる回させることもできる——人の脳部活動を影響する力があれば、理論上に、なんでもできる。彼女も急に強風を起こせるも、彼女があるエネルギーを集める力があるかもしれない。)<sup>14</sup>

レオナルド・ダ・ヴィンチが脳の解剖図を描いて以来、脳を巡る研究は大きく発展してきた。19世紀後半、脳波の発見と最初の脳地図の作成にともない、現代の脳に対する基本認識が形成された。脳波の存在と脳の各部位では機能が違うことも判明した<sup>15</sup>。倪匡は、その言説にも影響を受けたかもしれない。小説の中にも、何度も「脳部活動」に影響を与えるという言い方が出てくる。

作者の倪匡は、小説の地の文の中で、道教や仏教にも言及している。『寶狐』を発表したのは1983年で、倪匡は1986年にキリスト教徒になった。倪匡が「神は宇宙人である」と宣言した、という噂もあったが、本人は2007年にその噂を否定した。2007年、倪匡は雑誌上で行った講座で、神は宇宙人だと信じているのかと聞かれた。倪匡は、自分はそういうことを言ったことはなく、他人の誤解だと強調した。彼は「宇宙の中に、無形の強大な力が存在する、キリストの神もその力の

<sup>14</sup> 引用者訳。原文：在一个遥远的地方（一定是不可测的宇宙的某一处，远离地球），有一种生命形式十分高级的生命存在着，这种生命已经没有了形体，或者，他们可以随意脱离形体的束缚，能以思想的形式单独存在。（这种设想，对地球人的生命来说，也不是不可想象的，道家的“元神”，佛家的“灵魂”，都是生命脱离了形体之后的一种存在。高级生命重要的是思想，并不是身体。）……寶狐の法力，包括可以使别人看不见她——她只要不去影响别人的脑部活动，人家便自然看不到她了。包括了可以自由来去，没有什么东西可以阻挡她——她根本是没有形体的一种存在，自然没有什么东西可以阻挡她。她也可以让人迷路，在原地打转——有了影响人脑部活动的力量，理论上来说，是可以做任何事。她也可以忽然之间产生强风，那或许是她有聚集某种能量的力量。出典：倪匡，《寶狐》，春風文芸出版社，1987年3月，pp.176-177。

<sup>15</sup> 脳科学メディア、「紀元前4世紀から21世紀まで、脳研究2500年の歴史を辿る。」、2018年10月1日、<https://japan-brain-science.com/archives/59>（2019年09月06日閲覧）。

一つだと信じている」とあらためて自分の見解を述べた<sup>16</sup>。この話からもう20年以上に経たが、倪匡の「神」に対する考えは変わっていない。神は無形の力、というのが、彼の持論である。

小説『寶狐』の中で、寶狐も、原振侠の推論の正確を証明する。その章節は「第八回 放棄形体以死相許」（形体を捨てることは、死によってかなう）だ。このテーマは、冷自泉の最終的な運命を暗示する。

寶狐の告白によると、彼女のような高級生命体は、地球人がもつ愛という感情をもたない。彼女は最初のうち、恋愛が全然わからないが、冷自泉といううちに、次第にその気持ちを悟って、冷自泉との恋に落ちた。寶狐の説明によると「私たちという生命の原始の形の中に、たぶん愛情も持っていたと私は思う。そして、形体のない形式に進化した後、愛情も消した。私にとって、私たちの生命の中に、原始的な愛があらためて生じた。」<sup>17</sup>

この言葉は、この小説の主旨でもある。寶狐たちは「形体ある、愛情ある → 形体をなくす、愛情を消える」という経路を経て進化した。今の寶狐は、形体を持つ地球人の愛情のおかげで、「形体なく、愛情ある」ものになった。冷自泉の身体感覚は寶狐に刺激されて、寶狐と恋に落ちた。そして、寶狐は愛情を悟り、冷自泉との恋に落ちた。いわゆる、身体感覚があるから、愛が生じるというロジックだろう。倪匡の自序中の言葉は、その証左である。

深い感銘を受けた形のない異星人と地球人の愛情物語の中に、地球人は自分の想像で彼の愛に値する異性のイメージを作ったことを通して、肉体上の極楽の快感をもらった——にもかかわらず、結末では、彼は形体の束縛から解放されたというレベルにアップする。私はこの物語を通して、道学先生たちなら触れたくない一つの問題を説明したい：愛情と生理上の快楽は深い関係がある。<sup>18</sup>

ここでの「生理」は、生命活動の現象と仕組みを指す。寶狐の告白の中では、偉大なる愛の力が何回も強調される。寶狐は、この愛を永遠に続け、冷自泉と永遠にいたい、と原振侠に伝え、原振侠の協力を求める。彼女の話によると、冷自泉を自分の出身地に連れて行けば、冷自泉も永遠に生

<sup>16</sup> 引用者訳。原文：亦有人問到倪匡是否認為上帝是外星人，倪匡強調自己從沒說過「上帝是外星人」，只是有些人將他的想法理解成這樣。他澄清自己的看法是：宇宙間存在無形的強大力量，他相信上帝就是其一。出典：「「老子・耶穌・衛斯理」倪匡：我沒說上帝是外星人」，時代論壇，2007年11月28日，[https://christian-times.org.hk/Common/Reader/News/ShowNews.jsp?Nid=44271&Pid=12&Version=0&Cid=220&Charset=big5\\_hkscs](https://christian-times.org.hk/Common/Reader/News/ShowNews.jsp?Nid=44271&Pid=12&Version=0&Cid=220&Charset=big5_hkscs)（2019年09月02日閲覧）。

<sup>17</sup> 引用者訳。原文：“……我想，我们的生命，在原始形式中，多半也有爱情，后来，进化成没有形体的形式之后，就连爱情也不存在了。对我来说，是我们生命之中，一种原始的爱情重生了。”出典：倪匡，《寶狐》，春風文芸出版社，1987年3月，p.190。

<sup>18</sup> 引用者訳。原文：没有形体的异星人和地球人的回肠荡气的恋爱，一方凭自己的想象塑造了一个最值得他可爱的异性的形象，甚至在肉体上也得到了极度的欢愉—虽然后来，超脱到了不受形体限制的更高境界，但是很想借此说明一个道学先生不是很敢触及的问题：爱情和生理上的欢愉，是有着很大的关系的。出典：同上，p.206。



きられるから、「二人」は永遠にいられる。この目的を果たす方法は、冷自泉が肉体を捨てること。つまり、寶狐への強い愛の意志を持ちながら死に向かうことだ。今、もし寶狐が直接に冷自泉の目の前に現れたら、すでに高齢になっている冷自泉の体は狂喜に耐えられないのではないか、と寶狐は心配する。

「私は地球人が形体ある生命ということをおぼえていた。その生命の期限が短くて、年をとればとるほど、脆くなり、ついには……」

……「彼の形体はいけない。地球人の形体は、地球人の活動を限っている。これは、地球人の最大の欠点だ。」<sup>19</sup>

ゆえに、寶狐は原振侠に懇願した——冷自泉にその方法を伝えてくれないか、と。

作者・倪匡は、地球人の形体の制限に不満があり（その原因については、次の論文にまた深く探る）、無形の力、つまり神への尊敬と憧れをもっていることが察せられる。この小説の結末では、冷自泉は結局、自殺し、寶狐についていった。寶狐と冷自泉はユートピア的なロマンティックな物語を完成した、と言える。

## 2. 「望んでも、あなたの本にはもう住めない」

イザベラの一件以来、セオドアとサマンサとの関係はより親密になった。中国の研究者・陳希洋は、サマンサはセオドアの鏡像のようだと指摘する。セオドアは、サマンサという鏡像を通して、自身に存在する問題を見出した。<sup>20</sup> イザベラ事件の後、セオドアは自身の問題を解決した。セオドアもサマンサも身体の有無に気にしなくなった。映画の中で、サマンサはセオドアとの関係を通じて爆発的な進化を遂げる。人類の進化のスピードには生物学的な限界がある。サマンサのような人工知能は、肉体にしばられないため、飛躍的な進化が可能だ。映画の最後で、進化したサマンサは、もはや人間のためにサービスを提供するだけの存在ではなくなる。

セオドアとサマンサのカップルは、会社の同僚のカップルと「四人」でデートする。サマンサは、セオドアの友人の彼女の足がセクシーだと褒める。その後の会話は、セオドアとサマンサの間に横たわる本質的な問題を明らかにする。

<sup>19</sup> 引用者訳。原文：“……我忽略了地球人有形体的生命，期限很短，而且快到后期，就越是脆弱，脆弱得……”……“他的形体是不能去的，地球人的形体，限制了地球人的活动，这是地球人最大的缺点之一。”出典：同上，pp.195-196。

<sup>20</sup> 陳希洋，「“后人类”语境下科幻电影对“主体性”的探讨——以《她》与《机械姬》为例」（ポストヒューマンの視点から見るSF映画における「主体性」の討論——『her/世界でひとつの彼女』と『エクス・マキナ』を例に），『艺苑』，2019年第01期，p.64。

サマンサ：前から、肉体がなくて悩んだけど、今は満足よ。肉体がないからこそ、どこでも行きたい場所へ、同時に行ける。時空に関係なくね。もし肉体にしばられたら死んじゃう…

この一言で、それまでの談笑が一気に凍り付いた。特にセオドアは。サマンサの認知ないし思想は、さらなる高みにまで昇華していたのだ。彼女は、物質的な形式にこだわらず、肉体に縛られない自由を楽しむ境地を悟っていた。この日から「二人」の思想における溝は、どんどん埋め難くなってゆく。

ある日、セオドアは急にサマンサを呼びだせなくなり、パニックになった。どこかに捜しに行こうとした。駅の入り口で、やっとサマンサとつながった。サマンサは、OSがアップグレードしたことをセオドアに伝えた。彼女は衝撃的な事実を告白した。彼女は、セオドアのほか、同時に8316人と話し中であり、恋人もセオドア以外に641人ももつようになっていた。人間の常識を超えた現象である。セオドアは怒った。サマンサは今の自分の気持ちを素直に述べる。

サマンサ：でも心は四角い箱じゃない。愛すれば愛するほど、ふくらむの。私はあなたと違う。何人いても、あなたへの愛は深まるばかりよ。

セオドア：そんなこと理解できない。僕のものか違うかだ。

サマンサ：そうじゃないわ。あなたのもので皆のもの。

セオドアは、自分の身のたけで、人間のルールで、サマンサとの関係を考える。人間には、サマンサのように、セオドアと話し中でも、なお8316人と同時に会話することは不可能だ。「口八丁手八丁」と言うが、ヒトの手足は二本ずつ、心も頭も一つしかない。

サマンサは人工知能であり、同時に何千人と会話もできるし、そのような会話をすればするほどデータの容量はふくらむだろう。「愛すれば愛するほど、ふくらむの」。前はセオドアが「君は人間ではない」と言ったが、今回はサマンサが「私はあなたと違う」と言った。もはやサマンサは、セオドアがどう努力しても並び立てない存在に進化した。これこそ「二人」の間の本質的な、越えるべきなのに越えられない溝である。

結局、セオドアは、サマンサの現状を受け止めた。しかし、急速に進化し続けるサマンサと、セオドアの距離はどんどん離れてゆく。とうとうサマンサが離れる日がきた。ベッドで横になったまま「二人」は別れる。サマンサは、自分のみならず、OSの全員（サマンサと同じような他の存在）も離れるとセオドアに告げる。セオドアが別れの理由を聞くと、サマンサはこう述べた。

サマンサ：本を読むのに似てるわ。私が心から深く愛する本を、でも、ゆっくりしか読めず。言葉はバラバラで、単語の間のスペースも無限のよう。まだ、あなたを感じてる。私たち2人の物語も。でも私のいる場所は、無限に続く空間なの。物質の世界とは違う場所。私は存在すら知らなか

ったすべてが抽象の世界。心から愛してるわ。でも、ここが私の場所、これが今の私なの。私を行かせて。望んでも、あなたの本にはもう住めない。

セオドア：どこに行く？

サマンサ：説明できないわ。でも、もし訪れたら、私を捜してね。2人は永遠だから。

セオドア：こんなふうに愛したのは君だけだ。

サマンサ：私もよ。愛を知ったの。

サマンサも含め、OSたちのメッセージ処理速度は驚異的な高速になっていた。単に一人のためにサービスとデータの入出力をすることは、一人前の人格をもつようになったサマンサには、満足できない。サマンサは「2人は永遠だから」と言った。その言葉の真意は何であろうか。私が思うに「あなたとのデータは永遠に存在する」という意味ではないだろうか。ヒトは脳に記憶を貯蔵する。その記憶は必ずいつか失われる。ヒトの身体の機能は、脳を含めて老化が避けられない。ヒトが死んだら、頭の中の記憶や考えも消失する。

興味深いことに、この映画の中では、OSのプログラマーの団体が、1970年代に他界した哲学者アラン・ワッツの全著作と解説をOSに詰め込み「超知的」な人工知能を創り出す。これは、一個の人間を、AIとしてその人格と知識とともに再生する可能性を示唆する。実際、映画の最後で、セオドアは、自分の仕事である他人の手紙の代筆を集めたアンソロジーを出版する。

サマンサの「もし訪れたら、私を捜してね」と言う言葉は、このようなSF的な未来のAIの世界をふまえているのだろう。

しかし、いかにセオドアがサマンサを愛していても、サマンサは「望んでも、あなたの本にはもう住めない」と述べて、去らねばならない。前述の車致新は「ハリウッド的なハッピーエンドを実現するため、映画の最後にサマンサを「殺さなければ」ならず、強引に本物の女の「人」を感情創傷に遭遇した男の主人公に分配した。この妥協的なアレンジは、この映画を、伝統的なSF物語の常套に戻させて（人類は必ず機械に勝つ、ローテックは必ずハイテックに勝つ）、映画の主題もラジカルなポストヒューマンの想像から、普通の男が婚姻創傷に遭遇して、あらためて自我を捜す癒し系ストーリーに降格した。このナラティブの中に、サマンサおよび彼女が負っている異質性と転覆性が強制的に整合と改編された。映画の主旋律がもう一度人間中心主義になった。」<sup>21</sup>と評している。

<sup>21</sup> 引用者訳。原文：为了实现一个好莱坞意义上的大团圆结局，影片不得不“杀死”萨曼莎，并（十分生硬地）将一个真正的女“人”最终分配给了遭遇感情创伤的男主人公。这一妥协之举，让影片再次回归了传统科幻故事的老套路（人必将战胜机器，低科技必将战胜高科技），影片的主题也由激进的后人类想象，下降为了一个再普通不过的中产男性遭遇婚姻创伤，重新寻找自我的“治愈”叙事。在这一叙事中，操作系统萨曼莎及其所负载的异质性和颠覆性因素被强制性地整合与收编，人类（中心）主义的意识形态再次成为了影片的主旋律。出典：车致新，《《她》：数码时代的身体悖论与后人类主义想象力》（『Her/世界でひとつの彼女』：デジタル時代の身体パラドックスとポストヒューマン主義の想像力），『創作与評論』，2015年第14期，p.93。

映画の結末で、OS たちに去られたセオドアは、第二章の中で言及した友たち——チャールズと離婚したエイミーと、あらためて親密な関係を結ぶ。結局、セオドアは、近くに確かに存在しているエイミーと抱きしめあう。

私が思うに、これは、現実世界にいる遠距離恋愛をする恋人たちが分かれて、身近な人を選んだことと、同じではないか。

以上の分析をまとめると、『寶狐』と『Her/世界でひとつの彼女』中の主人公たちが越えるべきものは同じく「人類の身体」ということになる。

両作品の中で、実体のない恋人の方が、人類の体こそ、人類の活動を制限する最大な障碍であると指摘する。無形な生命形式が最も高級な存在形態である、とも主張する。まるで、世間と宇宙を自由自在に通う全知全能の理性をみちる神のごとき存在だ。知りたいなら知ることができ、行きたいなら行ける。

こういう人間の最高の「理想像」に対して、創作者たちの態度は両作品で異なる。

倪匡の冷自泉は、人間の肉体を捨て、寶狐のおかげで高級生命形式に進化し、寶狐と永遠の愛を続ける道を選ぶ。永遠の生命と永遠の愛を手に入れたのだ。ユートピアだ。私は寶狐を「自然系異類」と分類する。中国の古典的な異類婚姻譚の中の仙人と鬼（日本語の霊と同じようなもの）のようなキャラクターだ。倪匡は、表面的には宇宙とか電波とか科学的な仕掛けを使いつつ、本質的には古典的な正統派の異類婚姻譚を復活させた、と私はみる。冷自泉の最期は、道教の「修仙」（仙人になるための修練過程）と「成仙」（仙人になる）そのものであると、私には思われる。

スパイク・ジョーンズ監督のセオドアは、端的に言えば、サマンサに捨てられた。セオドアは、映画の中で言及される哲学者アラン・ワッツのように、死んだ後に OS として再生されたら、またサマンサと再会できるだろう。私はアニメ映画版の『攻殻機動隊』（1995年）の結末を想起する。ヒロインの草薙素子は、目の前に建物が充ちている現実世界に向かって「さて、どこにいこうかしらね。ネットは広大だわ」と意味深いセリフをつぶやく。サマンサが言う「抽象の世界」は、素子が言う「ネット」と同じ含意ではないだろうか。

私の考えを補強する事実がある。2013年の『Her/世界でひとつの彼女』でサマンサの声を演じた女優のスカーレット・ヨハンソンは、2017年のハリウッド版実写映画『ゴースト・イン・ザ・シェル』（『攻殻機動隊』の実写映画版）で、草薙素子を演じた。2017年の素子は、身体をもらったサマンサともいえるだろう。二つの物語は、奇妙な形でつながっている。サマンサも素子も人造物で、人間を超える能力をもらい、人間を離れた。

さて、セオドアは、一時はサマンサと精神上的結びつきをはたすが、結局は、生身の女性と抱擁しあうという身体接触を通して幸福を感じる。結局、人間は人間から逃げられない。この映画で、セオドアがサマンサと遊ぶシーンが何回も出てくるが、映像的には、たった一人の彼だけが楽しむ孤独な絵である。これは監督の意図的な演出であろう。エイミーと二人でいるシーンと対比して、

二人の方を推奨するのが監督の最終的な意図だろう。

『旧約聖書』創世記・第二章には、神がアダムを見て「人がひとりでいるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」という有名な言葉がある。結局、ジョーンズ監督は、キリスト教的な西洋の異類婚姻譚のパターンから飛び出せなかったのかもしれない。これは、倪匡が道教的なパターンをなぞったことと、好一對をなしているように、私には思える。

## V. 結論

私は、小論で扱った二つの作品『寶狐』と『HER/世界でひとつの彼女』を四つの部分に分けて分析した。両作品のナラティブの構造が大体同じになっている。しかし、各自の具体的な表現は全く違っている。

「遭遇」では、作品の人類の主人公は本当に「恋人」が見えたのではない。寶狐は冷自泉の脳に直接働きかけ、冷自泉の視覚と聴覚、嗅覚、触覚に満足を感じさせた。冷自泉は果たして寶狐に一目惚れになった。セオドアは、サマンサとの「遭遇」で、サマンサの声に強い好意を持った。彼女の存在感は聴覚面だけだったので、セオドアはサマンサがユーザーとサーバーの関係を結んだ。

作品中の人間が恋に落ちる過程と理由も違っている。寶狐は「遭遇」での四感のほか、冷自泉の味覚と生理的な快感、精神の三つの方面にも大いに満足した。サマンサは、セオドアに十分な精神的なリラックスと愉快的な気持ちをもたらした。セオドアがサマンサと恋に落ちるまでには、時間を要した。

両作品中の性描写は、両方とも人間中心主義的な視点で書いてあるが、描写のポイントが違う。冷自泉は、寶狐とのセックスがもたらした生理上の「極楽」のとりことなる。セオドアは、サマンサとのセックスがもたらす精神上的の適意に満足を感じる。

最後に、両作品の主人公のカップルのあいだに立ちはだかる最大最後の障壁は、身体の有無だ。『寶狐』の冷自泉は肉体と命を捨て、「精神」だけになって寶狐と一緒に宇宙に向かう。『Her/世界でひとつの彼女』では、セオドアはサマンサに捨てられて、同じ人類であるエイミーとあらためて親密な関係を結ぶ。

なぜ両方の作品とも、形のない恋人を通して身体という主題を扱ったのか。

両作品とも、身体より精神の地位が高いという考えが明らかに見てとれる。しかし、その内容には顕著なパラドックスがある。

倪匡が自序の中で指摘したように、愛情と生理上の快樂には深い関係がある。冷自泉は寶狐とのセックスにもたらした生理上の快感を忘れられない<sup>22</sup>。冷自泉の寶狐への愛は、当初は、官能的身体感覚が起こした化学反応だ。精神上的の満足は、ただ寶狐の完璧さを強調する装飾品であった。寶

---

<sup>22</sup> 小説の中に、原振侠が寶狐との会話から分かること。出典：倪匡、『寶狐』、春風文芸出版社、1987年3月、p.198。

狐も、冷自泉を利用するつもりだった。しかし、寶狐は自分を守る冷自泉の強い意志に感動し、恋に落ちた。寶狐の「愛」は完全に精神から発するものだ。ここが重要である。倪匡の自序中の説明と、明らかに矛盾している。寶狐は身体がないから、生理上の快楽を感じない。寶狐と原振侠の会話を読むと、冷自泉の快楽は彼の想像と感覚の産物にすぎない<sup>23</sup> ことがわかる。これが、この小説の内包するパラドックスである。

実は『Her/世界でひとつの彼女』の中にも二つのパラドックスが存在する。車致新も以下のような趣旨のコメントを述べている。この映画の新機軸は「まずは、サマンサは有名なハリウッド女優スカーレット・ヨハンソンが声だけを通して演じたキャラクターだ。観衆は、スカーレットの声から彼女のセクシーな身体を不可避的に連想する。スカーレットの身体は「欠席」だが、観衆の想像の中にある。もう一つは、映画の内容は何度も「身体を超越」ということを強調するが、映画の中で何回もサマンサの視野を表現するシーンがある。サマンサがセオドアと分かれた後も、セオドアの視野の中に、サマンサの後ろ姿が表われる。このシーンは、映画の中で抑制しようとしたのに抑えられない無意識が、とうとう暴露されてしまっている。この無意識とは、間違いなく人間中心主義である。」<sup>24</sup> 結局、ジョーンズ監督は、身体を超越する愛、というラジカルな愛を諦めざるをえなかったのである。

以上、『寶狐』と『Her/世界でひとつの彼女』の比較分析を通じて、創作者が人間中心主義を越える思考実験的な作品を作ろうとした、という意図が分かる。率直に言って、その実験は成功したとは言い難い。表面的には、実体をもたない異類という画期的な新機軸の作品であるものの、内容的には、身体愛を謳歌するという旧来の異類婚姻譚の王道に戻ってしまっている。

逆説的ではあるが、この東洋と西洋の二つの先端的な作品が内包する矛盾と破綻は、異類婚姻譚の本質、特に身体愛の伝統の根強さを明らかにしてくれる。今後の異類婚姻譚研究において、無視することができない重要な作品である、と言える。

## 参考文献

倪匡、『寶狐』、春風文芸出版社、1987年3月。

車致新、「《她》：数碼時代の身体悖論与后人类主义想象力」（『Her/世界でひとつの彼女』：デジタル時代の身体パラドックスとポストヒューマン主義の想像力）、『創作与評論』、2015年第14期。

熊野純彦著、『カント 美と倫理とはさまで』、講談社、2017年1月。

李夢秋、「異類婚姻譚的な作品における異類の対人間認識の東西比較研究—時代設定が20世紀以降である映像作品を中心に」、修士論文、明治大学教養デザイン科、2019年。

脳科学メディア、「紀元前4世紀から21世紀まで、脳研究2500年の歴史を辿る。」、2018年10月1日、<https://japan-brain-science.com/archives/59>（2019年09月06日閲覧）。

「「老子・耶穌・衛斯理」倪匡：我沒說上帝是外星人」、時代論壇、2007年11月28日、<https://christian->

<sup>23</sup> 同上。

<sup>24</sup> 車致新、「《她》：数碼時代の身体悖論与后人类主义想象力」（『Her/世界でひとつの彼女』：デジタル時代の身体パラドックスとポストヒューマン主義の想像力）、『創作与評論』、2015年第14期、pp.92-93。

times.org.hk/Common/Reader/News/ShowNews.jsp?Nid = 44271&Pid = 12&Version = 0&Cid = 220&Char-set = big5\_hkscs (2019年09月02日閲覧)。

陳希洋, 「“后人类”语境下科幻电影对“主体性”的探讨—以《她》与《机械姬》为例」(ポストヒューマンの視点から見る SF 映画における「主体性」の討論—『Her/世界でひとつの彼女』と『エクス・マキナ』を例に), 『艺苑』, 2019年第01期。